

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	H.F	学部・学科	国際教養学部
学年	4年	派遣国	イギリス
派遣大学	ドumontフォート大学		
期間	2021年9月6日～2022年6月25日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ()					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	○	シャワー	○	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (95,000) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (5) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	40000円	スーパーでの買い物、外食
学用品購入費	3000円	画材など
交通費	0円	遠出しなない限り基本なし
交際費	10000円	映画代やパターゴルフ代 (外食代を除く)
その他	円	
合計	53,000円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ロンドンやマンチェスターといった大きな都市と比べると比較的治安は良いです。しかし夜遅くに一人で出歩くのはお勧めしません。日が暮れると危ないエリアもあるので、日の入りの時間が早い冬は注意した方がいいです。川を挟んで大学の前にある Bede Park は、昼間はピクニックをしたりサッカーをしたりする人で溢れていますが、夜になると危ない人が集まるので出来るだけ通らないようにしました。

3. 医療について

(1) 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ()		
加入期間	(9) ヶ月間	保険料	(112,920) 円

現地の国/大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Immigration Health Surcharge		
加入期間	(18) ヶ月間	保険料	(115,419) 円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市/町 (レスター)
大学とシティセンターの距離が近く、あらゆる施設が密集しているので、徒歩 10 分圏内でスーパーや映画館、ショッピングセンターなどどこにでも行けます。また、サッカーとラグビーのスタジアムも大学から徒歩 15 分ほどの場所にあり、試合がある日には町中がお祭り騒ぎになります。カルチャー面では、インド系移民が多く、シティセンターから少し離れると異国情緒溢れる住宅街に出くわしたりします。全体的にマルチカルチュラルなエリアであるため、インドやポルトガル、中国や韓国など、様々な国の料理店が軒を連ねています。もちろん日本食料理店もありますが、西欧バージョンの日本食だと思っておいの方が良いです。慣れ親しんだ味に近い日本食を求めるのであれば、割高にはなりますがロンドンにある CoCo 壱番屋や一風堂に行くことをお勧めします。レスターはイングランドの中心部にあるため、ロンドンまでは電車で 1 時間、ノッティンガムまでは 30 分と、どこに行くにも比較的アクセスの良い位置にあるかと思います。他のエリアと比べて、日本人が特に少ない街だと感じるので、集中して英語を学びたい人には最適です。

【学業編】

1. 大学情報

大学	De Montfort University	所在地	Leicester
最寄空港	East Midlands Airport	空港からの距離	24.8km
空港⇄大学	(電車又はコーチ) *移動手段		
学生数	約 27,000 人	留学生数	2700 人以上
学部	The Faculty of Arts, Design The Faculty of Business and Law The Faculty of Health and Life Sciences The Faculty of Computing, Engineering and Media *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Computing, Engineering and Media / Graphic Design Course *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(12)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Integrated Graphic Studies			Type and Image	
午後	Integrated Graphic Studies		Integrated Graphic Studies	Type and Image	Media & Comm Tech for Graphic Design I

② (1)月～(5)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	Integrated Graphic Studies			Type and Image	Media & Comm Tech for Graphic Design I
午後	Integrated Graphic Studies		Integrated Graphic Studies	Type and Image	

3. 履修内容

科目 (和訳)	統合グラフィック研究		
履修期間	10月～5月	単位数	60
授業内容/形態	<p>午前中：最初の30分～1時間で講義。残りの時間は、スタジオで週替わりのプロジェクトに関連するアクティビティ。最後の30分で講評。</p> <p>午後：スタジオでプロジェクトの個人作業。先生が見て回ってアドバイスをくれる。最後の30分で講評。</p> <p>プロジェクト：ポスター、インフォグラフィックス、ブランディング</p>		
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

科目（和訳）	タイプとイメージ		
履修期間	10月～5月	単位数	30
授業内容／形態	<p>午前中：10月から12月はフォトグラフィーの授業、1月から5月は様々な方法でのプリントに関する実践授業。</p> <p>午後：最初の30分～1時間で講義。その後はスタジオでプロジェクトの個人作業。先生が見て回ってアドバイスをくれる。最後の30分で講評。</p> <p>プロジェクト：パッケージデザイン、エディトリアルデザイン</p>		
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

科目（和訳）	グラフィックデザインのためのメディア&コミュニケーションテクノロジー I		
履修期間	10月～12月	単位数	30
授業内容／形態	<p>Adobeのソフトの実践技術を学ぶ授業。</p> <p>10月から12月はPhotoshopとInDesign、1月から5月はIllustratorとAfterEffects。最初の1時間で講義とアクティビティ。その後はプロジェクトの個人作業。先生が見て回ってアドバイスをくれる。</p> <p>プロジェクト：冊子デザイン、アニメーション</p>		
YCU 振替予定	科目	なし	
	単位数		
	担当教員		

【総括】

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

留学先での約10ヶ月は大変なことと楽しいことが丁度半分ずつだったかと思います。元々英語力にはそれなりに自信があり、留学に対する想いやイギリス文化への愛は人一倍強いことを自負していたのですが、それでも楽しいのと同じくらい辛く感じるものがたくさんありました。

最初にぶつかった壁はイギリス英語でした。高校の時からイギリス英語が好きで馴染みのあるアクセントではあったのですが、それらは全てRP(Received Pronunciation)という人前に出る方々が使うような洗練されたブリティッシュアクセントであり、数あるイギリス英語の中でも比較的わかりやすいアクセントでした。実際にはマンチェスターアクセント、バーミンガムアクセント、スカウスなどの地方アクセントを使う人がほとんどで、馴染みのないイントネーションや単語の数々を聞き取るのに非常に苦労しました。英語が好きで昔から頑張ってきたからこそ、ここにきて英語で躓くことが悔しくて、好きだったイギリス英語がどうしようもなく怖く感じ、嫌になる瞬間もありました。インターナショナルの学生は第二言語として英語を使う者同士、母国語でない言葉話す苦労に理解があるため最初から比較的スムーズに会話できましたが、今でもブリティッシュの子たちと出かける時はちゃんと聞き取れるか心配で少し緊張します。クリスマスブレイクに入ると、今度はホームシックに悩まされました。それまで全く寂しさを感じることなく、新しい生活を楽しんでいたのですが、友達の殆どが実家に帰省したこともあって、外国に一人でいることを強く実感し非常に孤独を感じました。カルチャーギャップもあって、なかなかその時まで本当の意味で心開ける友人ができなかったのも、孤独を強く感じた要因かと思います。

しかし、長年憧れてきたイギリス留学、そして念願のデザインを学ぶ機会を手にしたこの留学は、私の生き方を最大限に広げてくれました。最終的には自分だけが自分を助けられること、望む道を開けるということを改めて学びました。海外での初めての長期生活、そしてコロナ禍での留学とあって、右も左もわからない上に手足まで拘束されたような状態で飛び込んだ世界でしたが、何もわからなかったからこそ、恐れずにただ前だけ見て進む勇気を持てた気がします。最初は、夢に見た景色が目の前に広がっていること、頭の中で描き続けたチャンスがちゃんと手を伸ばせば届く距離にあることが嬉しくて、ここで経験することの全てが新鮮で楽しかったです。その後は留学の目的の一つであった、「一人で海外行って荒波に揉まれること、そしてちゃんと挫けて学ぶこと」を経験し、辛い思いしたからこそかなり精神的に強くなりました。ちょっとやそっとのことじゃ動じないメンタルを獲得したと思います。深く踏み込もうとしたからこそ痛みを感じたと思うので、私はちゃんとこの留学で辛い経験ができて本当によかったです。誘われたらとにかく行く、やったことないことは全部やるという気持ちで突っ走ってきたからこそ、出会えた友人や新しい世界がありました。月並みな発言かと思いますが、留学でのこの一年がこれまでの人生で一番成長できた年かと思います。

(2)今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

DMUでのグラフィックデザインの授業に感銘を受けて、横浜市立大学からDMUのグラフィックデザインコースに正式に編入することにいたしました。以前から学業の傍ら、三浦半島を舞台にクリエイティブ活動をする学生団体で主に編集者・デザイナーを担当しており、将来的に多くの人と何か大きな作品を作る仕事がしたいと考えていました。大学3年目に入って就職活動が始める中、デザインに興味はあっても仕事にするには狭き門であることを認識し、クリエイターではないポジションで何かしらモノづくりに携われる職を探していました。そのため、デザインに挑戦してみたいという気持ちを満ち、最後にはちゃんとそれらに別れを告げることを目的に、この交換留学の機会を活用してグラフィックデザインを一年間やってみようと考えていました。結果、DMUで学んだデザインの世界は非常に興味深く、ここでこのままデザインを学びたいと強く思いました。また、イギリスで出会った様々な国からきた同年代の友人たちが皆、社会通念に囚われず、自分の意志で好きなように夢を追って生きている姿に背中を押されました。今回の留学で、横浜市立大学で3年弱学んできた国際教養が、あらゆる文化的バックグラウンドを持つ人たちとの交流に役立ち、論文やプレゼンで求められるような論理的思考や情報収集の経験が、一貫性のあるデザインの構築に役立ちました。本当に学びたい学問に出会うまで遠回りしてきたかと思いますが、遠回りした分得た力があること、必ずそれがどこかで役立つことをこの経験で学びました。グラフィックデザインに関する学問的な側面はまだ勉強途中であるため何とも言えないですが、例えこの先もしクリエイターとして芽が出なかったとしても、この留学を経た今、自分ならきっとまた新しい道を見つけられるという自信があります。

9月中旬にイギリスに戻るまでの約2ヶ月は日本の企業でインターンをし、ここでのクリエイターの働き方を学びたいと思います。来年の夏はイギリスでインターンをし、日本とイギリスの企業のあり方やワーキングスタイルの違いを比較した上で、最終的にどちらの国で就職すべきか考える予定です。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

2週間、3ヶ月、半年、一年。どんな期間の留学であれ、行動次第で間違いなく価値のある時間になると思います。わからないことだらけなのは当たり前なので、わからないのを楽しんじゃう勢いでとりあえず飛び込むと自然と色々な経験ができます。最初は不安でも案外何でもどうにかなります！そしてどんなトラブルもこれも海外か〜と面白がると、毎日が新鮮で楽しくなります。留学を実現するまでに沢山の努力を重ねてきたからこそ、こうなりたい、こうありたいという気持ちが強く、理想と現実とのギャップに悩むこともあるかと思いますが、きっとみんなそんな感じなので気落ちしないで下さい。辛い時はちゃんと休んで、頑張っている自分を認めてあげることが大事です！

そして言葉の壁が留学で経験する一番の困難かと思いますが、言語は違えどもみんな同じようなことで怒って、笑って、悲しんでいます。現地で出来た友達が、「海外で出来た外国人の友達」から「友達」に変わる瞬間がきっと来るので、その時は頼るなり何なりして、ぜひ仲間を作って行ってください。そうしていくと、何となくよそ者気分だったのがちゃんと町の一員として認められた気がして、全てが自分の味方をしてくれるような気持ちになれます。

これでもかってくらい遊んで、大変な思いはちゃんとして、あなただけの経験をしてきてください！頑張ってください！楽しんで下さい！